

2 - 3 東北地方 G.D.P. 高精度トラバース測量結果

G. D. P. Traverse Survey of High Precision in Northeastern Part of Japan

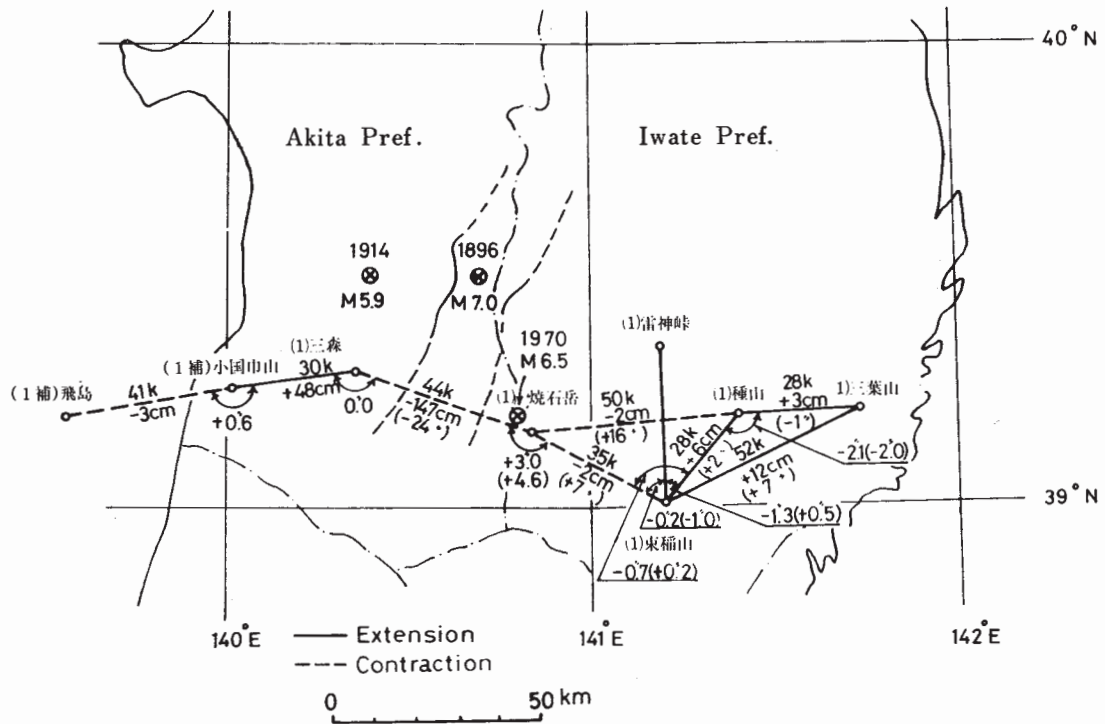
国土地理院測地部
Geodetic Division, Geographical
Survey Institute

国際地球ダイナミクス計画 (G.D.P.) の一環として行なわれている G.D.P. 高精度トラバース測量については、すでに北海道東部、関東北陸地方の結果がでて¹⁾いる。引きつづき行なわれた東北地方での結果について報告する。実施期間は 1973 年 4 ~ 6 月、使用機器は前報¹⁾と同じである。第 1 図は今回の測量結果と明治成果、昭和成果との比較である。図には 1894 年以降のこの地方の被害地震の震央も示してある。三森~焼石岳間の大きな縮みは図に示されている 1896 年陸羽地震 (M = 7.0) の際生じた千屋、川舟両断層²⁾の影響によるものかも知れない。焼石岳の大きな角度変化は 1970 年の地震 (M = 6.5) の影響と考えられるが、観測時における気象条件の影響とも考えられる。全般的にみて東西圧縮の傾向にあるようにみえるが、西半分の縮みが大きいことが注目される。

参 考 文 献

- 1) 国土地理院測地部, 北海道東部および関東北陸地方の G.D.P. 高精度トラバース測量, 地震予知連絡会会報, 9, 127 - 131, 1973.
- 2) 地質調査所, 秋田県南東部地震の地質学的背景, 地震予知連絡会会報, 5, 24 - 27, 1971.

1973-1894
 () 1973-1962



第1図 GDP高精度トラバース測量による東北日本の辺長および角変化。
 1894年～1973年間の値および()は1962年～1973年間

Fig. 1 Changes of length and angle in the Northeastern Part of Japan (GDP Traverse Survey of High Precision, 1973 - First Order Triangulation, 1894 and 1962. The values in parentheses are for 1962 ~ 1973.)